

教員名	大戸 美也子 (OHTO Miyako)
所属	子ども発達教育研究センター
学位	1965 家政学修士 1975 M. e d.
職名	教授
URL / E-mail	oto.mayako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

幼保一体的運営 / 排泄の自立 / 養育力 / エンパワー

◆主要業績

- ・「幼稚園教育改革、いま・昔」、お茶の水女子大学附属幼稚園「時の標（しるし）」フレーベル館、2006. 11
- ・「手引書『幼稚園（をさなごのその）』の原著とその入手経路について」、『幼児の教育』第105巻11号、2006. 11

◆研究内容

2つの研究テーマについて、調査・研究した。

1. 総合施設の実態についての調査
2. 2歳児の発達と学び

1のテーマは、平成18年度子ども未来財団調査事業の分担研究員として関東以北の7つの施設について聞き取り調査を実施した。

2のテーマは、排泄行為の自立期における子どもの学びの実態と保育者の支援の在り方を分析した。

◆教育内容

「保育臨床演習Ⅰ」（前期）

保育時間が長時間化、幼保一体化施設の出現、また非常勤職員の増大等により、保育施設における教職員のチームワークの持ち方が保育の質を決める重要な要素となってきた。複数担任のチームワーク、院内保育における多職種のチームワーク、常勤職と非常勤職とのチームワーク、管理者とのチームワーク、危機管理におけるチームワーク等、受講生の職場内のチームワークの事例を資料源に具体的に検討し良好な関係作りの条件を探る。

「比較保育学Ⅱ」（後期）

「少子対策」「地域格差問題」「幼保一体施設の運営」などの保育課題に関する取り組みについて韓国、中国、ベトナム、パキスタンの専門家による講演を交えて検討し、わが国の状況との比較検討を行う。

「保育実践研究Ⅰ・Ⅲ／Ⅱ・Ⅳ」（通年）

幼稚園と保育園の登園、あそび、食事、降園のそれぞれについてのドキュメンテーション作りを通して、両者の違いを具体的に把握する。

◆共同研究可能テーマ

- ・「子どもに優しいまちの保育政策に関する比較研究」

◆将来の研究計画・研究の展望

1. 親参加型子育て支援活動の担当者の専門性に関する研究

親の養育力をサポートするよりもエンパワーする考えに立つを強調するようになり、親の参加型の支援活動の実態から、担当者の専門性を分析する。

2. 二歳児の発達と学び支援：排泄行為の自立形成期の支援の指標に関する研究 その2

一歳から二歳への移行期の排泄行為に焦点をあて、子どもの自発行為と支援との関係性を「最近接領域」の視点からみていく。

◆受験生等へのメッセージ

「チャイルドケア アンド エデュケーション講座～子ども幸せ学の探求」は、現職保育者をはじめ乳幼児保育に関心を持つ社会人の『学び直しのニーズ』に応えるため開設されています。幼保一体的運営上の課題、保育におけるチームワークのあり方、親機能エンパワー論、保育の国際比較等の新しい知見に学びつつ、変革の時代にあってもなお質の高い保育を求める方々を応援します。